

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こすもす		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 26日		～ 2024年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2024年 11月 27日		～ 2024年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育園や幼稚園での生活に結び付くような支援を実施している。	保育園や幼稚園と併用している児は、どのような活動を行っており、何に困っているかを保護者から聞き取り、それぞれの利用児が困っていることに対してきめ細かい支援を行っている。未就園の児には園での生活に必要なことを重点的に支援している。その際、集団での取り組みと個別での取り組みを適宜取り入れている。	様々な園での活動の内容をより深く知り、実態に則した活動内容にしていく。
2	多機能型の事業所であり、児童発達支援と放課後等デイサービスとで一日の定員を分けている。そのため、一回の利用時の人数が少ないので丁寧な支援が実施できる。	毎回、活動の前後にミーティングを行い、一人ひとりについて支援の方法や改善点を話し合い、職員共通の情報や支援方法で支援にあたっている。また、利用児や保護者からの細かいニーズにも応えている。	児の様子が日頃と異なる際は必要に応じて帰宅後の様子を伺う電話を入れ、次回の支援に繋げていく。
3	児童発達支援が終了した後、放課後等デイサービスの利用になるが、同じ場所、同じ職員でサービスを提供しているため児にストレスを与えることなく放課後等デイサービスに移行できる。	夏祭りなどで、児童発達支援と放課後等デイサービスの間で交流したり作品展を合同で行い、放課後等デイサービスを意識できる機会を作っている。 放課後等デイサービスに移行する際、保護者にとっては最小限の手続きであったり、児にとっては同じような活動内容を取り入れ、放課後等デイサービスに移った際の違和感を減らしている。	保護者、児共に交流の機会を増やしたり、放課後等デイサービスの活動の様子を伝えたりしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者に対する支援が少ない。	保護者からの相談には応じるが、事業所側から特に相談を積極的に受け付けるような働きかけは少なかった。保護者から相談があれば受け付けるという状態だった。 職員の勤務時間の大部分が利用児に対するサービス提供時間であり、利用児の支援に精一杯の状態、父母の会や研修にまで及ばなかった。	相談日を設けたり、個別支援計画に関する面談以外にも事業所から積極的に困りごとがないかを呼びかけ、保護者が相談しやすい環境を整えていく。 研修会を実施したり、保護者の交流会の企画を検討したり、保護者も参加できるプログラム活動を増やしていく。
2	送迎が充実していない。送迎希望に応じることが困難なことが多い。	公用車が1台であり、送迎は保護者による送迎が困難な方に限っている。また、午後には放課後等デイサービスの時間になるため送迎に費やせる時間に限りがある。	送迎を担当する職員を配置して、送迎に費やせる時間を増やしていく。
3	各種マニュアルに関して、説明不足だった。	各種マニュアルを保護者が手に取りやすい場所に置いていなかった。	各種マニュアルを手の取りやすい場所に移動させると共に、分かりやすく図式化するなどして掲示していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こそもす

公表日 2025年2月14日

利用児童数

13

回収数

9

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	89%	11%	0%	0%		保護者も一緒に参加していただくプログラムの際は別の場所に移動し、スペースの確保に努める。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	78%	11%	0%	11%		児の状態やプログラムによっては職員の配置を増やすようにしているが、それを安定的に行えるように職員の確保をしていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		絵等を取り入れて分かりやすい環境にしている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		絵等を取り入れて分かりやすい環境にしている。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	89%	0%	0%	11%		専門性に欠けると感じたときは専門の機関に相談し、利用児と専門機関とを繋げている。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		内容を今後も見直し、適切な支援内容にしている。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		引き続き、保護者と情報共有して個別支援計画を作成していく。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	89%	0%	0%	11%		引き続き、内容を検討していく。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		引き続き、内容を検討していく。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		引き続き、職員が意見を出し合っ、プログラム内容を決めていく。
保 護 者 へ の 説 明 等	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	34%	11%	11%	44%		今後、園庭開放や他の園との交流会を検討していく。その際、他の園との交流を望んでいない児がいる場合もあるので、意見を尊重して実施していく。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	89%	11%	0%	0%		利用が始まる際は重要事項説明書を見ながら説明をしている。今後は支援プログラムについても同様に説明を行っていく。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%	0%	0%	0%		説明をしてサインをいただいている。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	45%	0%	11%	44%		研修会等を検討していく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	89%	0%	0%	11%		毎回の利用時に連絡帳で健康状態を記入していただいたり、送迎時に体調の確認をし、家庭での様子を伺っている。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	89%	11%	0%	0%		6ヶ月に一度の面談に加え、送迎時に子育てについての話をしたり、連絡帳においてやり取りをしている。面談日は設けていないが保護者からの要望に応じて相談を受けたり、助言を行ったりしている。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		引き続き、丁寧な支援を行っていく。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	34%	11%	11%	44%		父母の会や保護者会を検討していく。また、きょうだい参加型のプログラム活動を増やしていく。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	67%	0%	0%	33%		相談日を設ける事等を検討していく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		保護者の就労時間等を配慮して実施していく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	67%	0%	0%	33%		ホームページに公開した際は伝達する。通信の発行回数を増やしていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	89%	0%	0%	11%		個人情報については研修などで職員の質を上げていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	78%	0%	0%	22%		マニュアルを見やすい場所に置いたり、図案化して掲示する。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	78%	0%	0%	22%		全ての児に訓練が体験できるように日程を工夫する。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		引き続き、安全に留意して支援を行う。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	89%	0%	0%	11%		状況によってはお迎え時を待たずに電話連絡をして様子を伝えている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%	0%	0%	0%		安心して通所してもらえるように連絡や報告を丁寧に行う。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	89%	11%	0%	0%		児の発達や保護者の就労状況に応じて通所の回数を決め、楽しく通所できるようにしていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%	0%	0%	0%		引き続き満足して通所していただけるように丁寧な支援を行う。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こすもす		公表日 2025年2月14日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	指定基準を満たしている。相談室を使用しない時は必要に応じて利用児が使用している。	駐車場が十分に確保されていないため、来客が多い時には、園庭に車を停めるようにしている。車の止め方に工夫が必要である。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	基準配置に加え、加配職員を配置している。必要に応じてパート職員が出勤している。	利用者の状態によっては、人手が足りないと感じる場面がある。可能な限り職員の配置を増やす。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	室内の完全バリアフリー、車いす利用児に対応した多目的トイレやスロープを設置している。	玩具は利用児によって必要な物、不必要な物が異なるため場合によって取捨選択しているが、難しさを感じている。全ての利用児に必要で安全な玩具を増やしていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	定期的に玩具の消毒をしている。必要に応じて、室内のセパレートをしている。利用児の作品や季節に応じた壁面で楽しい空間になるようにしている。	季節に応じた作品を制作した場合、家庭に持ち帰る際に季節外れになってしまうことがあるため早めに返却していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	使用する児に応じて椅子や机を入れ替えている。子どもたちだけの使用ではなく、職員も必ずついて安全面などに考慮している。	個別に専門的な支援や、来客、保護者対応を行った際には、個別の部屋が利用できない場合がある。その場合は指導訓練室をセパレートで仕切り個別で過ごせる空間を作る。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	日常的な作業については、その月・週ごとに各職員の業務の量を確認し、役割を臨機応変に変わることができるようにしている。その際、職員と相談しながら行っている。	職員の体調等に応じ業務を割り振り、業務の円滑化を進めていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	全職員が全ての評価表に目を通し、会議をもち、意見を出し合った。	全職員が当事業所の弱点を把握して、弱点を克服できるように改善を行っていく。強みはより高い目標を設定して実行していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	随時、問題点や改善点に気づいた際には意見を交換し合うようにしている。	業務改善という事に絞った会議を設けることを検討していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	2	他事業所(法人内)からの情報を受け、業務改善を実施している。	第三者評価の実施を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	一人に偏ることがないように、満遍なく受講するように心がけている。経験や職員の業務内容によって受講者を選択している。	研修の案内を受けても、サービス提供時間であると受講できないことがある。職員を増員して受講の機会を増やしたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	75%	25%	ガイドラインの5領域に則して、作成している。プログラム、季節の行事など、様々な活動を意識して作成した。	初めての作成で手探りの状態だった。今後、より良く改善していきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	アセスメントを行い、保護者の意見を聞きながら作成している。	日々変わる利用児の問題点をリアルタイムで把握できているか疑問に思うことがある。保護者との情報共有を日頃からしっかりとしていきたい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	利用児に関わっている全ての職員が話し合っ計画を立てている。	様々な業務に追われるため、いかに内容のある話し合いにするかが課題である。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	個別支援計画は作成時から情報は共有しており、計画に沿った内容で支援している。	新たな課題ができた場合、個別支援計画にない内容を試しに実行することがある。必要に応じて早めに個別支援計画の見直しを行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	必要に応じて使用している。	限られた利用児においての使用であるため、事例を増やしていきたい。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	2024年度よりガイドラインを踏まえた個別支援計画の様式に変更して作成している。	今の内容で良いのか、書き方などで悩むことがある。個別支援計画についての研修を受けたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	定期的に活動を立案する会議を設けている。	試作したりする時間の確保が困難である。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	季節の行事など、様々な活動を実施している。	試作したりする時間の確保が困難である。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	毎回のプログラム活動は集団活動であり、その中やそれ以外の自由時間等、様々な場面において個別活動を行う計画を立て、支援を行っている。	まだ排尿の間隔が定まらない児に対して集団活動中にトイレに誘導することがある。外出の際のトイレ誘導を検討していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	朝礼時に一日のプログラムの内容・目的を共有するようにしている。	送迎に出ている職員の参加が困難である。伝達を必ず行っているが、確実に伝達できる方法を探っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	プログラムの実施後は、振り返りを行ったり、良い点・悪い点を共有したりして改善している。	送迎に出ている職員の参加が困難である。伝達を必ず行っているが、確実に伝達できる方法を探っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	各個人の様子などをサービス提供終了後に記録している。その際、支援の検証や今後の改善点を話し合っている。	読みやすさの観点からパソコンでの記録を検討していきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	漏れの無いようにチェック表を作り、6ヶ月ごとのモニタリングや計画の作成を行っている。	6ヶ月を待たずに必要に応じて計画の作成をすることはあるが、日々問題の異なってくる利用児には作成の頻度を増やしていきたい。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	100%	0%	職種に関わらず、直接支援をしている職員が参加するようにしている。	相談支援事業所の方とは電話や文書での情報の共有はある。セルフプランの方が多いため、相談支援事業所に繋げる役割も担っていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	必要に応じて連絡をとり、連携している。	全ての利用児の関係機関と連携はとれていない。特に問題は無くても連携をしていきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	保育園や他事業所との平行利用の際、情報共有を行って支援に当たっている。	保護者を通じて情報共有している利用児に関しては園と直接、情報共有する方法を取り入れていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	要望に応じて引継ぎ資料を作成し、入学予定の学校と面談をした。	資料を作成し、提出する。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	75%	25%	理学療法士や言語聴覚士の方に来ていただき、指導を受けたことがある。	当事業所側が積極的に連絡をとって指導を仰ぐことをしていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	75%	25%	計画中であるが実行できていない。	園庭開放や児童センター訪問などから実施していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	送迎時や面談、電話連絡などにおいて実施している。	嬉しい出来事は共に喜び合える、些細な事でも気になったら伝達できる関係を築いていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	75%	25%	保護者に対して、研修会や書籍の紹介は実施しているが、家族に対してのプログラムや研修は特に行っていない。	研修等を検討していく。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	利用開始時に運営規程やプログラム、利用者負担額、申し込み方法等の説明は丁寧に行っている。	今後は支援プログラムの説明も行っていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	説明を行い、支援内容、利用日の選択等、意思を確認している。	保護者の希望だけで利用日を決めるのではなく、利用児の希望も聞きながら申し込み日を決めるように伝えていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	個別支援計画を説明し、同意のサインをいただいている。	必要に応じて、本児にも説明をして支援の効果を上げていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	申し出があれば、必ず相談室（緊急の場合は電話の時もある）で相談や面談を実施する。	相談日として日と時間を決めて相談を実施していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	75%	25%	父母の会は実施していないが、保護者同士で交流するプログラムやきょうだい参加のプログラムを実施している。	父母の会の設立を検討したり、保護者やきょうだい参加できるプログラムを増やしていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	直ぐに状況の説明、原因の究明、今後の改善策の検討等の対応をしている。	利用児同士のトラブルに関しては両者の思いや障がい特性等により、早急の解決が困難な時がある。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	必要な時に発信している。	通信紙の発行の回数を増やしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	事前に、個人情報の取り扱いについてのアンケートを取っている。	個人情報の取り扱いには絶えず十分な留意が必要であると、様々な場面で全職員が確認していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	漢字に読み仮名をうったり、絵で伝えたりしている。	多くの改善店があると感じている。気が付いたところから改善していきたい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。	100%	0%	地域の方の畑で芋堀り体験をさせてもらったりプレゼントを渡したりと交流ができていく。	近隣の企業の方や公民館の方も招待していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	策定し、職員に周知し、訓練も実施している。	保護者への周知が足りていない。保管場所を変え、手の取りやすい場所に移動したり、掲示したりする。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	策定し、訓練を行っている。食品の状態を確認している。	食品以外の備蓄の状態を定期的に確認し、適切な状態にしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	保護者に確認を行っている。必要がある場合は医師の診断書の提出をお願いしている。	服薬に変更があった場合、保護者から連絡をもらえるように呼び掛けていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	保護者に確認を行っている。必要がある場合は医師の診断書の提出をお願いしている。	医師の指示書が無い利用児の保護者に提出を依頼する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	作成し、研修や訓練を行っている。	必要に応じて見直していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	連携が取れるように伝達している。	周知できているか確認していく必要がある。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	その都度共有し、検討している。	当事業所以外でのヒヤリハットも検討していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待のアンケートを実施して自己評価をする機会を設けている。研修も実施している。	様々な事例を提示して、虐待に当たらないかを検証できるようにしていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	身体拘束に関する説明を行ったうえで、個別支援計画に記載し、同意書にサインをいただいている。	その場にいる利用児、職員の全員の安全を確保できるようにするためにどのように対処するのが最善かを判断できるように職員の資質を向上させていく。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こすもす		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 26日		～ 2024年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2024年 11月 27日		～ 2024年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校での生活に結び付くような支援を実施している。	学校でどのような活動を行っており、何に困っているかを利用児や保護者から伝えてもらい、それぞれの利用児が困っていることに対してきめ細かい支援を行っている。学校での困りごとを克服して、学校で自信をもって過ごせるようになるまで繰り返し支援するようにしている。その際、集団での取り組みと個別での取り組みを適宜取り入れている。	支援学校や地域の学校での活動の内容をより深く知り、実態に則した活動内容にしていく。
2	多機能型の事業所であり、児童発達支援と放課後等デイサービスとで一日の定員を分けている。そのため、一回の利用時の人数が少ないので丁寧な支援が実施できる。	毎回、活動の前後にミーティングを行い、一人ひとりについて支援の方法や改善点を話し合い、職員共通の情報や支援方法で支援にあたっている。また、利用児や保護者からの細かいニーズにも応えている。	必要に応じて帰宅後の様子を伺う電話を入れ、次回の支援に繋げていく。
3	児童発達支援が終了した後、放課後等デイサービスの利用になるが、同じ場所、同じ職員でサービスを提供しているため児にストレスを与えることなく放課後等デイサービスに移行できる。	児童発達支援のときの様子を踏まえて、支援を行うことができる。放課後等デイサービスに移行した直後は児童発達支援のときの環境を保ちつつ放課後等デイサービスに慣れていけるようにしている。 放課後等デイサービスに移行する際、保護者にとっては最小限の手続きであったり、児にとっては同じような活動内容を取り入れ、放課後等デイサービスに移った際の違和感を減らしている。	保護者、児共に交流の機会を増やし、異年齢での活動のメリットを生かせるようにしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者に対する支援が少ない。	保護者からの相談には応じるが、事業所側から特に相談を積極的に受け付けるような働きかけは少なかった。保護者から相談があれば受け付けるという状態だった。 職員の勤務時間の大部分が利用児に対するサービス提供時間であり、利用児の支援に精一杯の状態、父母の会や研修にまで及ばなかった。	相談日を設けたり、個別支援計画に関する面談以外にも事業所から積極的に困りごとがないかを呼びかけ、保護者が相談しやすい環境を整えていく。 研修会を実施したり、保護者の交流会の企画を検討したり、保護者も参加できるプログラム活動を増やしていく。
2	送迎が充実していない。送迎希望に応じることが困難なことが多い。	公用車が1台であり、送迎は保護者による送迎が困難な方に限っている。また、サービス提供時間になると地域の学校の送迎希望に応じることができない。	送迎を担当する職員を配置して、送迎に費やせる時間を増やしていく。
3	各種マニュアルに関して、説明不足だった。	各種マニュアルを保護者が手に取りやすい場所に置いていなかった。	各種マニュアルを手の取りやすい場所に移動させると共に、分かりやすく図式化するなどして掲示していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こすもす		公表日		2025年2月14日			
			利用児童数	23	回収数	14		
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	86%	14%	0%	0%	園庭がもう少し広い方が良い。部屋は思った以上に広がった。	送迎時の保護者の駐車方法を確立して、スムーズに車の出し入れができるようにする。園庭でのプログラム実施の際には、私用車を移動させ、十分な広さを確保している。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	93%	0%	0%	7%		利用者や必要に応じてパート職員が出動している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	79%	0%	0%	21%		車いす使用児に対応し、室内のバリアフリーやスロープ、多目的トイレが整備されている。絵などを取り入れて分かりやすい環境にしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	86%	0%	0%	14%		必要に応じて、玩具の消毒を行っている。セパレートを使用し生活の空間を分けている。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		場面ごとの切り替えを意識した声掛けや、遊びを通して他者とコミュニケーションの練習ができるプログラムの実施をしている。専門性に欠けると感じたときは専門の機関に相談し、利用児と専門機関を繋げている。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		小集団をいかした丁寧な支援であったり、児童の要望に即したプログラムの実施をしている。内容を今後も見直し、適切な支援内容にしていく。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		保護者にアセスメントを取るだけでなく、日常的な会話からも困りごとを聞き取っている。引き続き保護者と情報共有して個別支援計画を作成していく。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	93%	0%	0%	7%		計画の説明にはガイドラインの5領域を用いて説明していく。引き続き内容を検討していく。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	86%	0%	0%	14%		計画の説明にはガイドラインも用いて説明していく。引き続き内容を検討していく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		引き続き今の方法を実施し、更なる工夫を行っていく。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	51%	0%	7%	42%	無かったとしても不満ではない。	地域の学校に通っている利用児童の中には地域の他の子どもと共に行うことを望んでいない児がいるため慎重に検討していく。
保護者	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%	0%	0%	0%		利用が始まる際は重要事項説明書を見ながら説明を行っている。今後は支援プログラムについても説明を行っていく。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%	0%	0%	0%		引き続き今の方法を実施し、更なる工夫を行っていく。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	30%	14%	14%	42%		大々的な研修会は行えていない。案内が可能な研修については、玄関の掲示で案内を行った。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		毎回の利用時に連絡帳で健康状態を記入していただいたり、送迎時に体調の確認や自宅での様子を伺っている。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	86%	14%	0%	0%		6ヶ月に一度の面談に加え、送迎時に子育てについて話をしたり連絡帳においてやり取りをしている。面談日は設けていないが、保護者からの要望に応じて相談を受けたり、助言を行ったりしている。

への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		引き続き今の方法を実施し、更なる工夫を行っていく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	30%	21%	0%	49%		父母の会や保護者会を検討していく。保護者同士やきょうだい向けの活動を増やしたり、参加の呼びかけ方を工夫したりする。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	86%	0%	0%	14%		相談日を設けて相談しやすい環境を整える。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	93%	0%	0%	7%		保護者の就労時間等を配慮して連絡を実施していく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	93%	7%	0%	0%		ホームページに公開した際は伝達する。通信の発行回数を増やしていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		個人情報については研修などで職員の質を上げていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	72%	0%	0%	28%		マニュアルを保護者が手に取りやすい場所に保管したり、訓練の様子の報告を見やすい場所に掲示したりする。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	86%	0%	0%	14%		全ての利用児が参加できるように実施日を工夫する。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		避難所に安全に誘導できるように様々な状況を想定してシミュレーションを行っておく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		状況によってはお迎えの時を待たずに電話連絡をして様子を伝えている。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	86%	0%	0%	14%	迎えに行った時、本人の顔を見て安心していると感じる。	常に児や保護者に寄り添った支援をしていくことで安心して利用してもらえるようにする。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	79%	0%	0%	21%	その日のプログラムにより異なるかもしれない。当日、施設に到着してそこで過ごすことを受け入れると予想しているので前日から楽しみにしているかは分からない。	ワクワクするようなプログラム活動であったり、人との関わりや、出来ることを増やしたりして意欲を持って通所してもらえるようにしていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%	0%	0%	0%		様々な事に寄り添って支援しているかを全職員で話し合い、至らないところを改善していく体制を常にもっておく。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	こすもす		公表日		2025年2月14日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	指定基準を満たしている。相談室を使用しない時は必要に応じて利用児が使用している。	駐車場が十分に確保されていないため、来客が多いときには、園庭に車を停めるようにしている。車の止め方に工夫が必要である。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	基準配置に加え、加配職員を配置している。必要に応じてパート職員が出動している。	利用者の状態によっては、人手が足りないと感じる場面がある。可能な限り職員の配置を増やす。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	室内の完全バリアフリー、車いす利用児に対応した多目的トイレやスロープを設置している。	玩具は利用児によって必要な物、不必要な物が異なるため場合によって取捨選択しているが、難しさを感じている。全ての利用児に必要で安全な玩具を増やしていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	定期的に玩具の消毒をしている。必要に応じて、室内のセパレートをしている。利用児の作品や季節に応じた壁面で楽しい空間になるようにしている。	季節に応じた作品を制作した場合、家庭に持ち帰る際に季節外れになってしまうことがあるため、早めに返却していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	使用する児に応じて、椅子や机を入れ替えている。子どもだけで使用するのではなく、必ず職員が付き添うようにしている。	個別に専門的な支援や、来客、保護者対応を行った際には、個別の部屋が利用できない場合がある。その場合は指導訓練室をセパレートで仕切り個別で過ごせる空間を作る。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	日常的な作業については、その月・週ごとに各職員の業務の量を確認し、役割を臨機応変に変わることができるようにしている。その際、職員と相談しながら行っている。	職員の体調等に応じて業務を割り振り、業務の円滑化を進めていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	全職員が全ての評価表に目を通し、会議をもち、意見を出し合った。	全職員が当事業所の弱点を把握して、弱点を克服できるように実行していく。強みはより高い目標を設定して実行していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	随時、問題点や改善点に気づいた際には意見を交換し合うようにしている。	業務改善という事に絞った会議を設けることを検討していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	50%	50%	他事業所（法人内）からの情報を受け、業務改善を実施している。	第三者評価の実施を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	一人に偏ることがないように、満遍なく受講するように心がけている。経験や職員の業務内容によって受講者を選択している。	研修の案内を受けても、サービス提供時間であると受講できないことがある。職員を増員して受講の機会を増やしたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	ガイドラインの5領域に則して、作成している。プログラム、季節の行事など、様々な活動を意識して作成した。	初めての作成で手探りの状態だった。今後、より良く改善していきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	アセスメントを行い、保護者の意見を聞きながら作成している。	日々変わる利用児の問題点をリアルタイムで把握できているか疑問に思うことがある。保護者との情報共有を日頃からしっかりとしていきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	利用児に関わっている全ての職員が話し合っで計画を立てている。	様々な業務に追われるため、いかに内容のある話し合いにするかが課題である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	個別支援計画は作成時から情報は共有しており、計画に沿った内容で支援している。	新たな課題ができた場合、個別支援計画にない内容を試しに実行することがある。必要に応じて早めに個別支援計画の見直しを行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	必要に応じて使用している。	限られた利用児においての使用であるため、事例を増やしていきたい。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	2024年度よりガイドラインを踏まえた個別支援計画の様式に変更して作成している。	今の内容で良いのか、書き方などで悩むことがある。個別支援計画についての研修を受けていきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	定期的に活動を立案する会議を設けている。	試作したりする時間の確保が困難である。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	季節の行事など、様々な活動を実施している。	試作したりする時間の確保が困難である。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	毎回のプログラム活動は集団活動であり、その中やそれ以外の自由時間等、様々な場面において個別活動を行う計画を立て、支援を行っている。	下校時間の遅い利用児に個別活動の時間を確保することが困難な日があるが、早く来所できた日にはしっかりと個別活動を実施していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	朝礼時に一日のプログラムの内容・目的を共有するようにしている。	送迎に出ている職員の参加が困難である。伝達を行っているが、確実に伝達できる方法を探っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	プログラムの実施後は、振り返りを行った後、良い点・悪い点を共有したりして改善している。	送迎に出ている職員の参加が困難である。伝達を行っているが、確実に伝達できる方法を探っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	各個人の様子などをサービス提供終了後に記録している。その際、支援の検証や今後の改善点を話し合っている。	読みやすさの観点からパソコンでの記録を検討していきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	漏れの無いようにチェック表を作り、6ヶ月ごとのモニタリングや計画の作成を行っている。	6ヶ月を待たずに必要に応じて計画の作成をすることはあるが、日々問題の異なってくる利用児には作成の頻度を増やしていきたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%	0%	2024年度よりガイドラインを踏まえた個別支援計画の様式に変更して作成している。	利用日によっては地域での活動日に参加できていない利用児がいる。また、地域の子どもの交流を望まない保護者もおられるため、地域支援の難しさを感じている。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	様々な場面で自己選択の場面を増やしている。活動の中で、選択する内容を取り入れることが多い。(画用紙やマジックの色・遊ぶ場所や玩具・座る場所等)	選択が困難な場合は二者択一や視覚での伝達を工夫しているが、別のツールも取り入れられるように情報を集めていく。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	職種に関わらず、直接支援をしている職員が参加するようにしている。	サービス提供時間に担当者会議が実施されると直接支援をしている職員は参加が困難になる。配置する職員を増やして参加していきたい。
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	必要に応じて連絡をとり、連携している。	全ての利用児の関係機関と連携をとれてはいない。特に問題は無くても連携していきたい。
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	100%	0%	保護者からの情報提供が多いが、学校と連絡調整ができていない所もある。	今の所特に問題は無い学校であっても、今後の様々な事に備えて連絡をとっていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	75%	25%	必要に応じて就学前の情報を共有して支援に生かしている。	必要な場合は情報の提供を求めていくが、個人情報観点からもその必要性をしっかりと検討してから実施する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	保護者を通して文書で情報提供している。	福祉サービス事業所から依頼があれば卒業を待たずに情報を提供する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%	0%	理学療法士や言語聴覚士の方に来ていただき、指導を受けたことがある。	当事業所側が積極的に連絡をとって指導を仰ぐことをしていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	50%	50%	利用児に意見を聞いている。	地域の子どもたちとの交流を躊躇する利用児や保護者がいることを配慮して計画を立てる必要がある。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	25%	75%	特に積極的に参加はしていない。	協議会のサポートブックの使用を検討し、情報入手を心がけていく。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	送迎時や面談、電話連絡などにおいて実施している。	嬉しい出来事は共に喜び合える、些細な事でも気になったら伝達できる関係を築いていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	75%	25%	保護者に対して、研修会や書籍の紹介は実施しているが、家族に対してのプログラムや研修は特に行っていない。	研修等を検討していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	利用開始時に運営規程やプログラム、利用者負担額、申し込み方法等の説明は丁寧に行っている。	今後は支援プログラムの説明も行っていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	説明を行い、支援内容や利用日の選択等、意思を確認している。	保護者の希望だけで利用日を決めるのではなく、利用児の希望も聞きながら申し込み日を決めるように伝えていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	個別支援計画を説明し、同意のサインをいただいている。	必要に応じて、本児にも説明をして支援の効果を上げていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	申し出があれば、必ず相談室（緊急の場合は電話の時もある）で相談や面談を実施する。	相談日として日と時間を決めて相談を実施していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	父母の会は実施していないが、保護者同士で交流するプログラムやきょうだい参加のプログラムを実施している。	父母の会の設立を検討したり、保護者やきょうだい参加できるプログラムを増やしていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	直ぐに状況の説明、原因の究明、今後の改善策の検討等の対応をしている。	利用児同士のトラブルに関しては両者の思いや障がい特性等により、早急の解決が困難な時がある。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	必要な時に発信している。	通信紙の発行の回数を増やしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	事前に、個人情報の取り扱いについてのアンケートを取っている。	個人情報の取り扱いには絶えず十分な留意が必要であると、様々な場面で全職員が確認していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	漢字に読み仮名をうったり、絵で伝えたりしている。	多くの改善点があると感じている。気が付いたところから改善していきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	地域の方を招待し、食事を共にするプログラムを実施した。夏祭りに招待した。	近隣の企業の方や公民館の方も招待していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	策定し、職員に周知し、訓練も実施している。	保護者への周知が足りていない。保管場所を変え、手の取りやすい場所に移動したり、掲示したりする。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	策定し、訓練を行っている。食品の状態を確認している。	食品以外の備蓄の状態を定期的に確認し、適切な状態にしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	保護者に確認を行っている。必要がある場合は医師の診断書の提出をお願いしている。	服薬に変更があった場合、保護者から連絡をもらえるように呼び掛けていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	保護者に確認を行っている。必要がある場合は医師の診断書の提出をお願いしている。	医師の指示書が無い利用児の保護者に提出を依頼する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	作成し、研修や訓練を行っている。	必要に応じて見直していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	連携が取れるように伝達している。	周知できているか確認していく必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	その都度共有し、検討している。	当事業所以外でのヒヤリハットも検討していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待のアンケートを実施して自己評価をする機会を設けている。研修も実施している。	様々な事例を提示して、虐待に当たらないかを検証できるようにしていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	身体拘束に関する説明を行ったうえで、個別支援計画に記載し、同意書にサインをいただいている。	その場にいる利用児、職員の全員の安全を確保できるようにするためにどのように対処するのが最善かを判断できるように職員の資質を向上させていく。